

第71回及び第72回がん対策推進協議会での中間評価指標に関する主なご意見

「がん予防」について

主なご意見	回答
HPVワクチンに関する指標について検討してはどうか。	HPVワクチン接種のあり方を、厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会で議論・評価しており、本協議会で評価する指標としては相応ではない。
職域がん検診の実施状況について、健保組合等の数字を集計していただければいいのではないか。	職域におけるがん検診については、実施されているがん検診の種類、検査項目、対象年齢等が様々であることから、引き続き厚生労働科学研究で実態把握に努めてまいりたい。

「がん医療」について

主なご意見	回答
全体目標の中で、患者体験調査の間20-4「医療スタッフは、あなた(患者さん)の言葉に耳を傾け、理解しようとしてくれた」を入れてはどうか	中間評価指標案に追加。 2006「医療従事者が耳を傾けてくれたと感じた患者の割合」
がんゲノム医療についてどの程度十分な説明を患者側が受けたかの指標があってはどうか。そうすると両方のサイドからゲノム医療の浸透ぐあいというのが評価できるのではないか。ただ、数的に非常に少ないところからスタートするので、十分に評価に堪える指標になるかどうかは今後も検討に必要なかもしれないが、少し考慮していただければなと感じた。	現在、がんゲノム医療の実装が始まったばかりであるため、中間評価指標に盛り込むことは困難。
がんゲノム中核拠点病院等における診療従事者の評価項目が3つ全て遺伝医学にかかわることなので、ちょっとバランスが悪い。実際に患者さんを診療する側の専門性を持っているドクターの数とか、医師の数とか、つまり化学療法に十分な実績を有する医師の数とか、そのような指標もあったほうがバランスがいいと思う。	中間評価指標案に追加。 2016「薬物療法に専門的な知識及び技能を有する医師の数」
標準診療実施率のデータは、院内がん登録とDPCデータの突出でデータを出しており、標準治療があるにも関わらず最初からこれを逸脱した適切でない治療が行われてしまった方々の自費診療におけるデータは、恐らくここに反映されてこないのではないかと。自費診療で行われている部分も含めて、エビデンスが明確でないがん治療が初期治療としてどのぐらい行われてしまっているかというデータを拾う何か手立てはないか。	DPCデータは保険診療が基本となっており、例えば自由診療のみの患者が含まれていないため、ご指摘の集計は当該データでは困難。
鏡視下手術件数は5大がんしか取り上げられていないが、5大がん以外も実施されているため、標準治療として鏡視下手術が認められているものを中間評価してもいいのではないかと。	「5大がん」→「がん」とし、中間評価指標案を修正。 2031「がんの鏡視下手術(保険診療に係るもの)の割合」
5大がん鏡視下手術とはロボット支援手術も入っているのか。	入っている。
医師と患者家族が双方向正に話し合っって納得する医療に至ったかというところで、セカンドオピニオンの実際の件数に関して、患者体験調査からもってこれないか。	中間評価指標案に追加。 2025「がん治療前に、セカンドオピニオンに関する話を受けたがん患者の割合」
チーム医療の推進の中で、がんセンターボードの件数を評価に入れてもいいのではないかと。	中間評価指標案に追加。 2056「1拠点病院あたりのがんセンターボード開催数」
がん拠点病院での薬物療法専門医について、いるか、いないかだけでなく、今後は数の把握もすべき。	中間評価指標案に追加。 2041「1拠点病院あたりの、がん薬物療法専門医数」

「がんとの共生」について

主なご意見	回答
<p>「痛みにかんする相談ができた患者の割合」とある。患者体験調査の問35の「心のつらさがある時に、すぐ医療スタッフに相談できる」という項目が中間評価指標(案)に入っていない。心のつらさの項目が患者本位のがん医療のところの指標にあってしかるべきと思うが、いかがか。</p>	<p>中間評価指標案に追加。 3011「心のつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談できる患者の割合」</p>
<p>中間評価指標(案)で約50の指標がある。これに優先順位付けや取捨選択をしてはどうか。是非事務局において検討して頂きたい。</p>	<p>第3期がん対策推進基本計画(以下「第3期計画」という。)策定時の議論のなかで、第2期がん対策推進基本計画と同様に重点項目を置くと力点がかかることから、第3期計画では重点項目を策定しなかった。そのため、中間評価指標案についても、優先順位はつけずに、評価を行う方針としたい。</p>
<p>患者さんのそばにある一番小さな社会は家族であり、全体目標の中で、家族ということに指標を置いて評価するのはどうか。</p>	<p>中間評価指標案に追加。 3003「家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合」</p>
<p>ピア・サポートについて、現状、どれくらい広がっているかの調査も必要かと思う。拠点病院の中でがんサロンの設置数であるとか、都道府県でそういったサロンの設置がどれくらいあるかとか、そういった数値というものはいかがか。</p>	<p>ピア・サポートについては、地域の実状に応じたプログラムが検討されているところであるため、中間評価指標に盛り込むことは困難。</p>
<p>がん情報サービスに満足している人たちはどれくらいあるかとか、そういう調査はあるのか。</p>	<p>がん情報サービスを訪れたひとのうち、アンケートに回答する方は限られている。また、満足度も重要であるが貴重なご意見を踏まえて質の向上につなげることも重要であることから、中間評価指標に盛り込むことは困難。</p>
<p>拠点病院の現況調査等に、主治医から相談支援センターにつなげていただくということを指標にしてはどうか。</p>	<p>相談支援センターの利用促進への取組を進めている中で、病院ごとに相談支援センターと他部門との連携の在り方が異なるため、中間評価指標に盛り込む事は困難。</p>
<p>医療機関などにおける就労支援に関して、中間指標は何かなくてもよいのか。例えば両立支援コーディネーターによる相談支援件数などが指標に入らないかと思っている。トータルでいろんな機関で両立支援がどれだけ行われたかといった指標が今後は重要だと思っている。</p>	<p>中間評価指標案に追加。 3045「がん相談支援センターにおける就労に関する相談件数」</p>
<p>内閣府の世論調査で、2週間に1回治療を受けながら働き続けられる環境と思うかという設問があり、3年の調査では「そう思う」という人は3割に満たない状況であった。ぜひ、この設問を入れていただきたい。</p>	<p>世論調査は、検討中。</p>